

約束を守り確認できる添田

公約や、いただいた意見を見える化します

施策6 ▶私の約束を、町の計画に落とし込みます ▶毎年、各施策の成果や実施状況を公表し、実施を断念したものは、その理由を明確に説明します

高齢になっても安心して暮らせる添田

買い物、通院、見守り、福祉を地域の生活基盤として支えます

施策5 ▶田川方面のバスは近隣自治体との連携を強化し、地域による交通支援のしくみを考えます ▶クアハウスを維持し、利用者の皆さんも運営を支援できるしくみづくりをすすめます ▶見守り対象者の把握と関係者間の情報共有の強化につとめます

将来に責任を持つ添田

必要なサービスを続けるために事業の優先度を明確にします

施策4 ▶公共施設ごとのカルテを作成し、施設のあり方を検討します ▶財政を健全に保つルールをつくります ▶予算をつくる過程を見える化（公開）します ▶町のお財布事情をわかりやすくお伝えします

地域で支え合える添田

人口減少を前提とした支え合いのしくみづくりを進めます

施策3 ▶行政区ごとに対話の場を設け、皆さんの声を聴き、まちづくりを進めます ▶地域活動や防災、福祉の担い手づくりを支援します ▶ふるさと納税の使途を増やし、団体・地域活動を支援します

町内で仕事とお金が回る添田

農林業、商工業、観光を町の仕事につなげ、地域経済循環を高めます

施策2 ▶農業の新しいビジョンを農家の皆さんと一緒に作り、稼げる農業を目指します ▶森林を守りながら、森林が持つ価値を新たな収入源につなげます ▶地元事業者を守る、事業継承支援などのしくみづくりを進め、小さなチャレンジ(起業)を応援します

住み続けられる添田

子ども、若者、高齢者が安心して暮らし続けられる添田へ

施策1 ▶先進事例を参考に“こどもまんなか”の学校づくりを進めます ▶空き家・空き地の利用率アップを目指し、住み慣れた添田での安心した暮らしや、将来の住まいの整理を考える「終活セミナー」を定期的に開催します

久保田町長が掲げる

6つの重点施策

すきな添田に「て」をくわえ
すてきな添田へ

8月22日から始まった久保田町政。数ある課題と向き合い、住民の皆さんと一緒に「て」を加えながら、すきな添田をすてきな添田へブラッシュアップしていくため、9月議会で発表した所信表明の概要と、選挙で公約に掲げた6つの重点施策を紹介します。

町長として 3つの役割を胸に

7月12日に行われた添田町長選挙において、住民の皆さんから負託を受け、8月22日に第33代添田町長に就任いたしました。任期の4年間、住民の皆さんのために、町のために、全力で頑張ってまいります。

町長には、3つの役割があると考えています。

▼住民の代表としての町長
▼行政のトップとしての町長
▼歴史をつなぐ者としての町長
この3つの役割を胸に刻み、町政を担っていく所存です。

「あなた」と「私」でつくる 4年後の添田町

添田町を取り巻く環境は、大

て「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」を目指しています。その合言葉が「みんなでまちづくり」です。

では「みんな」とは誰なのでしょう。私がこの言葉を使うときは目の前にいるあなたと私を意識しています。一人でも多くのあなたと一緒によりよい町をつくっていきたいと思っています。「こうしてほしい」という声を聴き、「こんなことをやってみよう」というコトバをカタチにできるよう行政としてサポートしていきます。

4年後には、「私たちはこんな町にしたい」「こんなことに挑戦したい」という声が今よりも多く聞こえる、そんな添田町になります。そんなあなたと私が増えていくこと。それが私の考える「みんなでまちづくり」です。

未来を見据えた 3つの事業

今年度は、これまで進めてきた事業を基本的に継続します。その中でも、特に3つの事業については、新たな対応を加えて取り組みます。

▼安心して使える水道事業へ
水道ビジョンの改定により、今後の厳しい見通しが示されま

きく変化しています。人口減少や高齢化、担い手不足、財政的な制約、公共交通の減少など、これまで当たり前だった暮らしや仕組みを維持していくことが難しくなっています。

しかし、変化を恐れるのではなく、これまで大切にしてきたものは守りながら、時代に合わせて変えるべきものは変えていくことが必要です。住民の皆さんとの対話を重ね、一緒に考えながら、未来の添田町づくりを進めていきます。

添田町は現在、第6次総合計画に基づき、2030年に向け

した。専門家の助言を受けながら、将来にわたり安心して利用できる水道のあり方を検討していきます。

▼健康・子育て福祉ゾーンの検討
子育てや福祉を支える拠点づくりは、福岡県が行う土砂災害警戒区域の調査結果を踏まえ、場所の選定を進めます。必要な施設整備については、今後も継続して検討していきます。

▼公共施設のこれからを考える
人口減少を前提に、必要な機能をどのように残していくのか。公共施設のあり方を見直し、将来につながる計画づくりを進めます。

みんなでつくる 花火大会へ

今年度の花火大会は開催を見送ることにしました。見送りの理由は、財政面と開催体制の課題です。これまで活用していた財源が使えなくなり、費用を町のだけで負担することは難しい状況でした。

また、協賛などを含めた新たな運営体制づくりも整わないまま、開催時期が過ぎました。来年度は「みんなでまちづくり」を実感できるような、町民の皆さんと一緒につくる花火大会を

第33代添田町長 久保田 実生

昭和50年3月12日生。九州大学卒。平成18年から令和4年まで添田町議会議員を4期16年間務め、議会広報常任委員会委員長などを歴任。8月22日から第33代添田町長に就任。好きな言葉は「がんばらないけどあきらめない」、「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」

目指します。

対話から始まる

これからのまちづくり

町長と議会は、それぞれ役割や立場は異なります。

しかし、目指すものは「よりよい添田町をつくること」です。議会には、町の未来について十分に議論いただき、良いものは良い、課題があるものは課題として、率直な意見をいただきたいと思っています。

私自身も、議会や町民の皆さんの声に耳を傾け、対話を重ねながら、未来の添田町づくりに取り組んでまいります。

